

# 武田安之助

本名

武田真輝

たけだ・やすのすけ

たけだ・まさてる

福山誠之館校長(第4代)

## 経歴

生:(不明)

没:大正7年(1918年)10月12日

慶応2年(1866年)	—	藩校誠之館・剣道初段
明治2年(1869年)～5年(1872年)	—	この間のある時期、藩校誠之館で洋学科の英学教師を務める
明治3年(1870年)7月～4年(1872年)9月	—	「貢進生制度」で大学南校に入学、英学を修め、化学を専攻
—	—	笠岡師範学校教師 (出典2)(出典3)
明治16年(1883年)3月～19年(1886年)5月	—	岐阜中学校校長(第4代) (出典1)
明治20年(1887年)ごろ	—	東京の金港堂で教科書の編纂。自らも執筆したものと思われる(『新撰理科読本』など)
明治21年(1888年)7月25日～26年(1893年)4月25日	—	尋常中学福山誠之館校長(館長)(第4代)
明治28年(1895年)～31年(1898年)	—	大分県尋常中学校校長
明治31年(1898年)12月～36年(1903年)11月	—	秋田県第一尋常中学校校長
明治32年(1899年)4月14日～33年(1900年)3月31日	—	秋田県立図書館・初代館長(中学校長との兼任)
明治34年(1901年)4月	—	秋田商業補習学校校長
明治36年(1903年)11月～44年(1911年)6月	—	北海道庁立函館中学校校長(第4代)
—	—	秋田県にて養老 (出典2)
—	—	大日本教育会会員
—	—	帝国教育会会員

## 関係年表

明治19年(1886年)10月30日	福山教育義会会長阿部正桓、「県立福山中学校維持方願書」提出
明治20年(1887年)	「福山教育義会設置維持、広島県庁管理」の「尋常中学校福山誠之館」発足
明治25年(1892年)3月2日	斉藤次郎・岡田吉頭「尋常中学福山誠之館、地方税支弁ニヨリ維持ニツキ稟請」
明治26年(1893年)3月6日～11日	生徒退館請願事件
明治26年(1893年)4月1日	「尋常中学福山誠之館」を「広島県福山尋常中学校」と改称

## 生い立ちと学業、業績

### [事績・業績]

藩校誠之館出身の初めての校長である。校長在任中の最も大きな出来事は尋常中学福山誠之館が広島県福山尋常中学校と変わったことであった。それは、経営危機によって、経営母体が福山教育義会から、広島県に変わるものであり、その間の館長の心労努力は大変なものであったと推測される。

本来、化学教科書編纂に従事していた学者肌の人物であって、生徒の思い出も館長としてよりも教師としての方が強かったようである。

「ツイデ武田安之助先生が館長兼教諭トシテ来任サレマシタ。先生ハ福山人デ、東京の金港堂デ教科書ノ編纂ニ従事セラレテ居ラレタノデアリマス。専門ハ理科系デアリマシテ、ヨク原書ヲ読ミ実験ヲシテオラレマシタ。化学ニハ特ニ精通セラレ化学会員デアリマシタ。快活ナルソノ講述及ソノ実験ハ生徒ヲ満足セシメ、(下略)」(高木伴二述「明治廿年前後ノ校長外諸先生ノ思出」)

広島県福山尋常中学校へ転換してわずか1月を経ずして辞任せざるを得なかったのは、直前に起きた「生徒退館請願事件」の故であった。この事件は次のようにして始まった。「当時監事兼務の若井遜教師と、明治16年(1883年)以来の英語科教諭、当時教長(教頭)兼務の川又茁(かわまた・めぐむ)教諭の2氏は、いずれも指導力抜群という評があつて生徒の絶大な信頼を集めていたが、2人とも明治26年(1893年)3月をもって退任させられるという話が生徒間に伝わった。生徒達は、両氏の留任を武田館長に求めたが、明確な回答を得ることができなかった。これを不満とした多数の生徒は3月6日にいたり、そろって退館を願い出た。」この後「武田館長が生徒の説諭にあたった。生徒はこれを聞こうとせず、『ノーノー』『ヒヤヒヤ』と大声をあげ、不穏な様子となつたので説諭を中止した。」ついで、岡田吉頭郡長(深津・沼隈・安那郡長)が知事の内命により、生徒の説得にあたった。「3月11日は何事もなく生徒達は郡長の説得に応じ万事郡長に一任ということで、正午頃一同退散した。3月12日は日曜、3月13日からは、ほとんどの生徒が出席し、平常通り授業が行われた。間もなく同年4月1日から、本校は地方税支弁の福山尋常中学校となり、同日付けをもって、武田館長・川又教諭ともに県教員として再任されているが、若井教師には教師の発令はなかった。やがて4月22日には川又教諭、同25日には武田校長、ともに免官された。」(『誠之館百三十年史(上巻)』554頁)

以上がその顛末であり、『誠之館百三十年史』もこの事件の真相は明白ではないと書いているが、ここに描出された武田館長の、館長としての像は必ずしも望ましいものとはいえないが、その後秋田中学校(現秋田県立秋田高等学校)、函館中学校(現北海道立函館中部高等学校)校長を歴任したことから判断するならば、相当な人物であったことも疑いない。

松岡義

晃(昭和28年卒)

出典1:HP「岐阜県立岐阜高等学校」

出典2:『郷賢録』、24頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典3:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、86頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典4:『福山学生会雑誌(第37号)』、67頁、「故武田直行畧傳」、武田五一誌、福山学生会事務所編刊、明治45年2月28日

関連情報1:『誠之館百三十年史(上巻)』、18・499・554 頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

関連情報2:『福山学生会雑誌(第39号)』、61頁、福山学生会事務所編刊、大正元年12月18日

関連情報3:『学校要覧(昭和62年度)』、4頁、秋田県立秋田高等学校

2004年11月10日更新:出典情報●2005年4月4日更新:肩書・経歴●2005年11月11日更新:関連情報●2006年3月27日更新:本文●2006年6月7日更新:経歴●2007年11月26日更新:経歴●2008年4月21日更新:出典・関連情報●2009年9月3日更新:タイトル●2012年5月9日更新:経歴●2016年8月18日更新:氏名・出典●